

「自然科学学習館」(「アルヴェ AL☆VE」内)紹介



～自然科学学習館に関するQ & A～
Natural Science Learning Center



Q1 「秋田拠点センター(AL☆VE：アルヴェ)」は、いつどのような目的で設立されたのですか？

秋田駅の東西が一体となったまちづくりを実現するため、市民交流空間と魅力ある都市機能の創出と、市民生活の向上および地域の活性化を図ることをねらいとして、平成14年10月に着工、平成16年7月16日にオープンしました。秋田市と民間事業者との連携により整備された複合ビルです。

Q2 「アルヴェ：AL☆VE」という名称の由来は何ですか？

わし座のアルタイルと、こと座のヴェガによる造語で、方言の“そこに行けば何かあるべ(あるさ)”という意味と、イタリア語の alveare(大勢の人が集まる所)を掛けて名付けられました。



Q3 「アルヴェ」にはどのような施設がありますか？

5階建ての公共棟には次のような施設があります。

1階には「きらめき広場」(5層吹き抜けの開放的室内広場)、「駅東サービスセンター」(住民票の発行などの窓口サービス、市政・暮らしに関する情報提供など)と「音楽交流室」(4室)、2階には「多目的ホール」(2層吹き抜け空間で各種講習会、展示などに利用)、3階には「市民交流サロン」(情報交換、交流の場)があります。「自然科学学習館」は4階・5階に位置しており、5階には「子育て交流室」(子育て支援・ファミリーサポート)が隣接しています。

14階建ての民間棟には、貸オフィス、映画館、医院、ホテルや民間の事務所等があります。平成20年3月移転のNHK秋田放送局はアルヴェ東側に隣接しています。

Q4 「自然科学学習館」は、どのような目的で設立されたのですか？

我が国は、90年代半ばに「科学技術創造立国」を目標に掲げました。特に、国民全体の科学技術に対する理解と関心を深め、将来の科学技術の担い手や理解者である青少年を育てるための科学技術や理科教育の充実が求められました。

秋田市においても“時代の要請に応える理科教育施設”を設置することにより、科学に親しむ活動の場を提供して、次代の秋田を担う人材の育成を目指しています。そこで、本館では、触れて・感じて・考えながら科学の楽しさに親しむ企画を工夫し、科学に興味をもたせ、理解を深めさせるような成果を生み出すように努めているところです。

Q5 「自然科学学習館」の開館・閉館時間等はどのようになっていますか。また、これまでの来館者数はどのくらいになりましたか？

一般利用は、平日・土曜・日曜・祝日の9:00～18:00の時間帯で、毎週月曜日が休館日です。令和8年3月末までの来館者数の合計は、3,972,875人(1日あたり平均612人)です。

<参考> 平成16年度：165,238人(開館日217日)

17年度：181,055人(308日)	18年度：191,476人(308日)
19年度：238,781人(310日)	20年度：218,311人(308日)
21年度：220,145人(307日)	22年度：218,359人(294日)
23年度：223,148人(308日)	24年度：208,898人(308日)
25年度：217,399人(307日)	26年度：219,490人(309日)
27年度：194,000人(308日)	28年度：197,315人(308日)
29年度：211,429人(308日)	30年度：213,033人(308日)
31年度：177,892人(309日)	
R2年度：63,997人(209日)	R3年度：63,756人(252日)
R4年度：102,819人(308日)	R5年度：140,410人(309日)
R6年度：156,403人(307日)	R7年度：149,521人(308日)

※R=令和



Q6 「自然科学学習館」はどのようなスタッフで運営されているのですか？

館長、副館長、企画・運営に当たる職員5名、バスの運営・送迎に当たる職員4名、受付業務に当たる職員3名の合計14名が日常の業務に携わっています。企画・運営に当たる職員は、平日の学校利用、休日自主事業のプログラム開発、展示物更新計画の作成などを行っています。(令和8年度4月1日現在)

Q7 4階・5階の各フロアはどう利用されているのですか？

4階はワークショップフロア(304㎡)、5階は展示体験フロア(341㎡)、中央部階段で各階を接続しています。

平日に行う自主事業としての学校等の利用、夏季休業中の中学生によるワークショップ、小学校教員によるワークショップおよび休日の自主事業などが4階を中心に開催されています。また、校外学習で5階を訪れる秋田市内外の学校も多くあります。



Q8 平日での学校等の利用は、どのように行われていますか？

秋田市内の全小学校の3年生児童、秋田市内中学校の第2学年生徒を対象に、ものづくり体験(小学校)、サイエンスショー、テーマ別実験(中学校)など、学校側からの主体的な計画(平常の授業の一環として)をもとにして、科学的な見方や考え方を養う場として計画的に利用されています。



<令和7年度実績>

- ・小学校3年生の学校利用：39校・延べ51日間・2,059人が利用。
- ・中学校2年生の学校利用：21校・延べ45日間・2,178人が利用。
- ・公立保育所は5所が利用。1保育所につき年1回を基本に利用可能。ワークショップ展示体験等を実施。
- ・「すくうるみらい」(市教委)、「スペース・イオ」(県教委)は年間1回実施。
- ・勝平小中学校千秋分校は隔年実施をしていて令和7年度に利用。
- ・市内外の各種団体利用もある。

Q9 関係機関とはどのように連携していますか？

秋田市理科教育研究会との連携では、毎年度、夏季休業中の『秋田市竿燈まつり』期間時期に、「中学生科学部員によるワークショップ」(2日間)と「小学校教員によるワークショップ」(1日間)を開催しています。(令和7年度参加者数：3日間で748人)

前者については、中学校科学部員が自分たちでワークショップの内容を企画・運営しており、県内外の観光客から好評を得ています。なお、平成27年度から平成31年度までは、秋田中央高校躍進探究部員もワークショップを開催していました。

後者については、秋田市理科教育研究会会員が企画した内容をもとに、ものづくり、ワークショップやミニサイエンスショーを親子連れの方々を対象にして開催しています。

また、秋田大学や秋田工業高等専門学校、大森山動物園、食肉衛生検査所等との連携、サイエンスサポーターによる企画も毎年実施しています。

Q10 休日自主事業の内容や実施状況はどうか？

幅広い年代の方々に科学を楽しむ場を提供することをねらいとして、県内外から多彩な講師を招き、工作や工房、科学イベントを開催しています。令和7年度には、37日間で6,756人が参加しました。



- <参考> 本館職員による企画(13日)
関係機関との連携・共催による企画(16日)
外部講師招聘による企画(6日)
業務委託による特別企画(5日) ※日数は延べ

Q11 サイエンスサポーターの登録と活用状況はどうか？

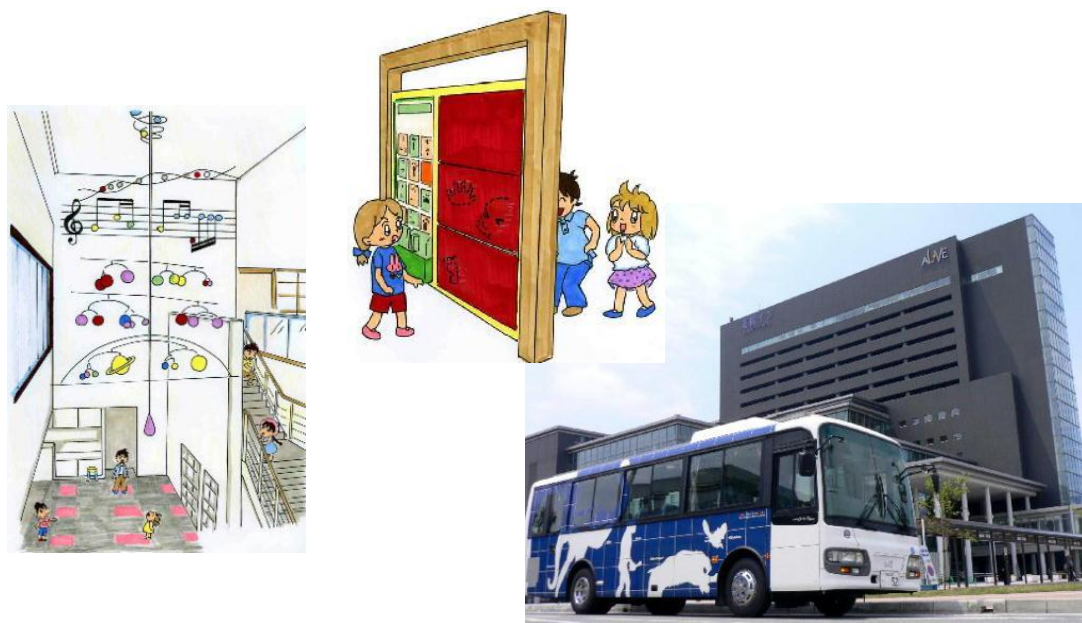
本館では、大学や高専に在籍する学生を対象にサポーター登録を呼びかけ、「サイエンスサポーター自主企画の実施」「本館イベントの補助」「本館運営への協力」を行っています。令和7年度は登録者数が16名(秋田大12名、その他4名)。

休日自主事業「サイエンスフェスティバルⅠ」には13名、「新春☆おもしろ体験」に2名、「サイエンスフェスティバルⅡ」には11名の協力をいただきました。サイエンスサポーターの自主企画による活動「きらめき de サイエンス」については、平成17年度は「ロボットづくり」、平成18～令和7年度には「おもしろ実験工作ワークショップ」を開催しました。(令和2年と令和3年はコロナ禍のため実施していません。)

Q12 外部評価機関は設置されていますか？

「自然科学学習館運営懇談会」を設置し、委員の方から本館の運営や関係機関との連携の在り方等について意見や助言をいただいております。

科学教育関係者、学校教育関係者、社会教育関係者、PTA活動関係者による「運営懇談会」を年2回程度開催しています。



自然科学学習館

秋田拠点センターアルヴェ 秋田市民交流プラザ 4F/5F

〒010-8506 秋田市東通仲町4-1

TEL: 018-887-5330 FAX: 018-887-5331

URL <http://www.alve.jp/pages/ns>

E-mail ro-edns@city.akita.lg.jp

開館時間 9:00~18:00

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)